

19世紀の漢訳聖書と『古新聖經』について

余 雅 婷

Nineteenth century translations of the Bible and *Guxin Shengjing*

YU Yating

The main objective of my research is to analyze the relevance of the translations carried out by different Jesuit missionaries and the cultural interactions at work within Poirot's *Guxin Shengjing*, as well as their implication on cultural exchanges between China and the "West" in the middle and late Qing. I thus have tried to outline the diffusion of *Guxin Shengjing*, showing the influence it has had on the Chinese Bibles of the 20th century, such as Robert Morrison's *Shentian Shengshu* and the *Studium Biblicum* version (*Sigao Ben* 思高本).

Keywords: He Qingtai; Louis Antoine de Poirot; *Guxin Shengjing*; *Shentian Shengshu*

はじめに

19世紀から中国に来たプロテスタント宣教師であるモリソンが中国語による聖書全訳の嚆矢『神天聖書』を翻訳する際に参考にしたのがカソリックであるポアロとバセの翻訳本であったことも重要な事実である。しかし、カソリックとプロテスタントはその布教活動に対する考え方の違いから、翻訳活動にはさほど関連性がみられないのではないか、というのが従来の見方であった。だが実際には、翻訳や宗教関係の用語では両者の翻訳が続くことがうかがえることである。本稿は『古新聖經』、『神天聖書』と『神天聖書』の翻訳の際に、カトリックの宣教師ジャン・バセの手稿本『四史攸編』について検討を行う。

また、『古新聖經』と『思高聖書』両者の差異において、聖書植物の訳語を分析し、その継続関係についてを明らかにしたい。

1. 『古新聖經』、『神天聖書』、『四史攸編』との関係

1.1 モリソン『神天聖書』との関係

プロテスタントによる聖書の漢訳は19世紀にはじまる。1807年に中国に渡ったロンドン伝道会 (London

Missionary Society) 宣教師のモリソン (Robert Morrison、1782-1843) がいる。中文名は馬禮遜である。彼は『華英字典』の編纂者でもあり、「英華書院」というミッションスクールをマラッカに設立した人物でもある。1823年に出版された三部六巻の『華英字典』、これが世界最初の英漢－漢英対照の字典となった。モリソンの華英字典は『康熙字典』の部首配列法を採用し、例句には『論語』『紅樓夢』等の他、成語や諺、俗語などが多く引用され、内容も豊富であった。ドイツの宣教師・ロブシャイドの『英華字典』に先んじた成果であり、後の字典に与えた影響は大きかった¹⁾。

彼は1807年に広東に入り、アメリカ商館で密かに中国語を学び、当時の中国の政治経済状況の把握と風俗習慣への理解に努め、中国に於ける布教活動の準備を行う。また中国人との接触を図る為に東インド会社の通訳官の仕事を引き受けた。聖書の漢訳に着手した。モリソンは、1810年に使徒行伝を漢訳出版し、1814年には新約聖書の『新遺詔書』を出版した。彼はさらに漢訳をつづけ、1815年からはウィリアム・ミルン (William Milne、中国名は米憐、1785-1822) の協力を得て²⁾、1823年には旧新約聖書の『神天聖書』を出版することとなった。ミルンが翻訳した部分は以下の通り。

『申命記』、『約書亞記』、『士師記』、『撒母耳記』、『列王紀』、『歴代記』、『以斯帖記』
『尼希米記』、『約伯記』

以上はすべてモリソンによって審査され、1813年の『新遺詔書』と1823年の『旧遺詔書』を合冊して、『神天聖書』を出版することとなった。

モリソンの翻訳観を言及する前に、彼が聖書翻訳の際に参照したと言われる一連の稿本がある。この手稿本とは、フランスのラザリスト会宣教師のジャン・バセによる『四史攸編』である³⁾。この稿本の存在は、内田 2010によって紹介された。ジャン・バセは (1662-1707年、中国名は巴設) フランスの里昂生まれ。のちにパリ外国宣教会の宣教師として活躍した。1689年末に広東に到着し、広東、福建、浙江、江西の各省で活躍し、1692年には広東の副代牧となった⁴⁾。

1) George Kam Wah Mak, *Protestant Bible Translation and Mandarin as the National Language of China* Brill, 2017, pp19-20.

2) George Kam Wah Mak (2017) p83: William Charles Milne, for example, was interviewed by its editorial sub-committee during his furlough concerning Medhurst's application for funding to print the Nanking Version.²⁰ This modus operandi allowed the BFBS to maintain a small staff establishment and thus reduce its running costs. The BFBS in China The BFBS began its work in China by subsidizing the translation, publication and circulation of Morrison's wenyen Bible during the 1810s and 1820s.

3) 内田 2010を参照。

4) A. J. Garnier 1933 *Chinese Version of the Bible* による。また、顧長聲、1981《傳教士與近代中國》：にもほぼ同じく「十八世纪初年，巴黎外方傳教會的傳教士巴設曾翻譯四福音書、使徒行傳和保羅書信。英國倫敦大不列顛博物館所藏編號為史隆三五九九號的漢譯部分《新約》，可能是巴設所譯。這批譯稿是由在廣州的東印度公司職員帶到倫敦贈送給漢斯·史隆爵士的，後來由他捐獻給博物館收藏。」

1.2 『四史攸編』ケンブリッジ所蔵本、『神天聖書』と『古新聖經』

モリソンの書簡には、彼が『神天聖書』の翻訳の際に、カトリックの宣教師ジャン・バセの手稿本を参考し、自ら「いくつかの中国語教師の助けを借りた。いくつかのローマのカトリック教徒の翻訳も役に立った。」ということが記されている。これがおそらくは入信した中国人の弟子・梁阿発と梁滔であり、彼の言語および聖書の翻訳に大きな助けを与えていたと考えられる。

“I always stated explicitly to you, that the Chinese MS. in the British Museum, a copy of which, under the Missionary Society’s care, I procured, was the foundation of the New Testament in Chinese, which I completed and edited⁵⁾

……my helps were, British Museum MS.; several and Native Roman ... several Roman Catholic works in China MS. Dictionaries of Chinese; and Native Teachers of the language.”

カトリック教徒とは、前述のジャン・バセ以外は、モリソンと同じ時代のポアロの聖書を参考したことを仮定している。なお、『四史攸編』の各稿本間の異同の詳細については塩山の「近代の中国語訳聖書の系譜に関する覚書き——バセの『四史攸編』を中心に——」（2011）で証明されている⁶⁾。ここでは三者が重なる新約部分について、『四史攸編』ローマ・カサナテンス図書館所蔵本（以下『四史攸編』ローマを省略）、『神天聖書』と『古新聖經』を改めて検討したい。

『古新聖經』は、ポアロがトリエント公会議で公認聖書となったラテン語ブルガタ訳聖書を底本として、『旧約聖書』及び『新約聖書』を中国語に抄訳したものである。『四史攸編』も翻訳者のバセがブルガタ訳聖書を底本としていることは先行研究によって既に指摘されている。同じくラテン語ブルガタ訳聖書を底本とする両者、そして『四史攸編』を参照した『神天聖書』について、「ヨハネの福音書」第1章の一部分を例に、どのように中国語に翻訳されているのか、それぞれ本文を比較対照してみよう。

まずは「ヨハネの福音書」1章29節から39節を見てみよう。最初にタイトルを検討する。

| | |
|-------------|------------|
| 『四史攸編』（ローマ） | 若翰攸編耶穌基督福音 |
| 『神天聖書』 | 聖若翰傳福音之書 |
| 『古新聖經』 | 聖若望聖經并序 |

5) Robert Morrison, Eliza Morrison, Samuel Kidd *Memoirs of the Life and Labours of Robert Morrison, D.D. : With Critical Notices of His Chinese Works and an Appendix Containing Original Documents*, Volume 2, Longman 1839, pp10-15.

6) 塩山正純「近代の中国語訳聖書の系譜に関する覚書き——バセの『四史攸編』を中心に——」、愛知大学『言語と文化』No.24 (2011) を参照。

『四史攸編』と『神天聖書』は同じく「福音」を使っていることがわかる。また、『古新聖經』と『神天聖書』両方ともタイトルの前に「聖」がつく。したがって、『古新聖經』のタイトルは「聖若望聖經并序」とされているが、内容を詳しく見ていくとすべて「聖若望的萬日畧」と記している。ラテン語の“evangelium”の音譯から「萬日畧 (evangelium)」と忠実に翻譯したことがわかる。また、ヨハネの訳語について、『四史攸編』と『神天聖書』は同じく「若翰」を使う。一方、『古新聖經』は「若望」と「若翰」、二つの中国語の訳語を使い翻譯した。

次は「ルカの福音書」1章29節の内容を分析してみる。

- 『四史攸編』（ローマ） 翌日若翰見耶穌來，曰：「此乃神之羔，此乃除世罪者。此郎吾素云人將來于我後者。得有于我前，蓋先我已在。我素不識之，而特來付水之洗。」以著之于依臘 尔焉若翰又設証曰：「余已見聖風如白鴿自天降，而居其上...（略）」耶穌巡視其徒問之曰：「爾等何尋。」答之曰：「臘被（譯師）」
- 『神天聖書』 次日若翰見耶穌來向之而曰：「觀神之羔，取去世之罪者與。此乃吾素所云將來于我後者，而已有于我前也」蓋基本前我而在焉。又余素弗識之，而特來付水之洗，現著之于以色列以勒之人也。若翰又証曰：「余既見聖風如白鴿焉自天降而居其上...（略）」耶穌迴視其徒隨後問之曰：「爾等何尋也。」答之曰「啞吡即是譯言爾」
- 『古新聖經』 別日，若翰見耶穌來他前，就說：「此即天主羔羊，他也除免世界之罪！這是我說的『在我後要來的一人，比我先選的』，因在我前，我本未見他面，但天主默照我認識。故特來用水洗人，為教依斯拉耶耳民認得他。」若翰還証見他說：「我親眼見聖神借鴿形從天降來在他頭...（略）」耶穌回頭見他們隨着，問他們：「你們找甚麼？」他們說：「拉彼即師傅——在何方住？」

内容を表にすると以下の通りである。

(表一)

| | 『四史攸編』（ローマ） | 『神天聖書』 | 『古新聖經』 |
|---------------|-------------|--------|--------|
| 1. John | 若翰 | 若翰 | 若翰 |
| 2. Jesus | 耶穌 | 耶穌 | 耶穌 |
| 3. God | 神 | 神 | 天主 |
| 4. Sin | 罪 | 罪 | 罪 |
| 5. Baptize | 水之洗 | 水之洗 | 水洗 |
| 6. Israel | 依臘尔 | 以色列以勒 | 依斯拉耶耳 |
| 7. Holy Ghost | 聖風 | 聖神風 | 聖神 |

| | | | |
|----------|-------|----------|--------|
| 8. Rabbi | 臘被 譯師 | 啦吡 即是譯言師 | 拉彼 即師傅 |
|----------|-------|----------|--------|

上掲の（表一）から、“John = 若翰”、“Jesus = 耶穌”、“God = 神”、“Sin = 罪”、“Baptize = 洗”であり、三者すべて同じ言葉に訳していることがわかる。特にキリスト教における重要な概念「洗礼を受けたこと」は『四史攸編』（ローマ）と『神天聖書』は全く同じで、『古新聖經』に一文字の差異であるだけである。また、“Holy Ghost”について、『四史攸編』（ローマ）は「聖風」、『神天聖書』は「聖神風」で、一文字の差異だけである、一方、『古新聖經』は「聖神」と翻訳した。そして、「臘被」、「啦吡」、「拉彼」はヘブライ語の Rabbi ラブ（偉大な）という言葉から出ているが、聖書では「先生」という意味で用いられる。三者とも「師」に訳したことがわかる。

つぎには『聖書』における重要な人名、キリスト教に関わる語彙と量詞について、『四史攸編』（ローマ）、『神天聖書』と『古新聖經』の中国語訳を見てみよう。

（表二）

| 聖書人物 | 『四史攸編』（ローマ） | 『神天聖書』 | 『古新聖經』 |
|-----------------|-------------|--------|--------|
| 1. Pharisees | 法吏叟 | 口法 喇口希 | 法里塞阿 |
| 2. Jerusalem | 柔撒冷 | 耶路撒冷 | 日露撒冷 |
| 3. Moses | 每瑟 | 摩西 | 每瑟 |
| 4. Mary | 瑪利亞 | 馬利亞 | 瑪利亞 |
| 5. Abraham | 阿巴郎 | 亞伯拉罕 | 亞巴拉哈母 |
| 6. David | 達未 | 大五得 | 達味 |
| 7. Jesus Christ | 耶穌基利斯督 | 耶穌基利士督 | 耶穌基利斯督 |
| 8. Solomon | 撒落蒙 | 所羅門 | 撒落孟 |
| 9. Satan | 撒旦 | 口撒 口但 | 撒旦 |
| 10. Spirit | 聖神 | 聖神 | 聖神 |

このように、ブルガタ訳聖書を底本とした『四史攸編』（ローマ）と『古新聖經』につかわれている人名と地名の当て字は“Moses = 每瑟”、“Mary = 瑪利亞”、“David = 達未／達味”、“Jesus Christ = 耶穌基利斯督”、“Satan = 撒旦”、“Spirit = 聖神”であり、ほぼ一致している。一方、キリスト教における重要な概念以外に、『神天聖書』にある人名、地名の翻訳語は『四史攸編』によるものではないということは明白である。これについては、朱鳳の「モリソンの書簡についての研究——Joshua Marshman との確執」⁷⁾で証明されている。人名と地名の部分について、モリソンが『四史攸編』をあまり参照しなかった理由は、聖書翻訳に使用する用語に関して、モリソンは早くから用語の統一を考えていたからである。そのため、18世紀のイエズス会の漢訳聖書と区別して、モリソンは聖書あるいは宗教関連の出版物にあ

7) 朱鳳「モリソンの書簡についての研究——Joshua Marshman との確執」近代東西言語文化接触会『惑問』第24号、2013年12月。

る人名や固有名詞に使用した漢字の統一性を確立したいことが読み取れる。

(表三)

| 聖書における宗教性の言葉 | 『四史攸編』(ローマ) | 『神天聖書』 | 『古新聖經』 |
|--------------------------------------|-------------|-------------------------|------------|
| 1. Corban (which is a gift) | 各耳班 | 呵咄 口板 | 我當給你的物 |
| 2. Devil | 魔 | 鬼風 | 魔 |
| 3. Bread | 餅 | 餅 | 饅頭 |
| 4. Ephpheta (Be thou opened) | 拂大 | 口以 口法 口大 | 葉斐達 |
| 5. Sabbath | 撒罷日 | 口撒 口百 日 | 撒罷多 |
| 6. phylacteries | 寬其帶, 長其縵 | 用寬的 口富 啦 口革 口氏 口利 | 寬其帶, 長其縵 |
| 7. Pasch | 巴斯卦 | 口巴 口所 口瓦 | 巴斯卦 |
| 8. Rabboni (which is to say, Master) | 辣博你 譯曰 吾師 | 啦啞呢 即是師也 | 拉彼尼! 解說: 師 |

上掲の(表三)から Corban (プレゼントとして) という言葉について、『四史攸編』(ローマ)と『神天聖書』において、“Corban = 各耳班”、“Corban = 呵咄 口板” というように音訳で訳されていることがわかる。『古新聖經』は音訳せず、代わりに、一般大衆にわかりやすいよう、「我當給你的物」と意識した。また、“Devil”の漢訳語には、『四史攸編』(ローマ)と『古新聖經』は同じく「魔」を使い、『神天聖書』は「鬼風」を使った。“Bread”について、『四史攸編』(ローマ)と『神天聖書』では同じ「餅」と中国語に訳したが、『古新聖經』は中国の食生活の中で、長い歴史のある「饅頭」と訳した。

(表四)

| 数詞と量詞 | 『四史攸編』(ローマ) | 『神天聖書』 | 『古新聖經』 |
|--|-------------|------------------------|--------------------------------------|
| 1. Talent (measurement) that owed him ten thousand talents. | 一千萬金 欠之一千萬金 | 一萬呔咻呔 (注釋: 銀鐐之名 約值四十兩) | 一萬『達楞多』(注釋: 一「達楞多」銀是一百二十五觔, 但觔只有十二兩) |
| 2. three measures of meal | 三斗 | 三升斗 | 三斗 |
| 3. for they were not far from the land, but as it were two hundred | 不遠約兩百肘 | 不遠似約兩百尺 | 因離岸近, 只有三十丈 |

また、(表一)、(表二)と(表三)によって、「呵咄 口板」、「口以 口法 口大」、「口撒 口百 日」、「口富 啦 口革 口氏 口利」、「口巴 口所 口瓦」、「啦啞呢」など、聖書の固有名詞に関しては、モリソンは同じ発音の当て字を使い、「口」を加え、口偏で記している。発音を漢字の表音文字を使い、口

偏をつけて翻訳する方法としては、十九世紀から中国に来た西洋人によく使われていた⁸⁾。漢字本来の意味を無視し、発音を注視していたことがわかる。モリソンが編んだ辞書『五車韻府』（1819）にあるように、「口加口非」と、表音文字として使っていることを表したのものもある。

2. 『古新聖經』から思高本へ

2.1 ガブリエレ・アレグラについて

『思高聖書』は1968年香港で出版されたカトリック教会の聖書である。イタリアのフランシスコ会神父ガブリエレ・アレグラ（Blessed Gabriele Allegra, 1907年-1976年）、中国名・雷永明の手による。彼が1945年北京に創立した「思高聖經学会」によって、翻訳され注釈をつけられた聖書である。アレグラ神父は11歳でフランシスコ会入会。30年で司祭叙階になった。翌年中国宣教に赴き、45年北京にフランシスコ会聖書研究所を設立したが、政情から香港に移転、76年死去した⁹⁾。

「思高」という名前は中世ヨーロッパの神学者・哲学者 John Duns Scotus から取ったものである。アレグラは自分の訳に満足せず、中国人神父5人に参加してもらって上記の組織を設立したと伝えられる¹⁰⁾。また、ガブリエレ・アレグラは当時北京に在住したとき『古新聖經』の北堂稿本残稿を撮影した。写真は全部で308枚である。

その後共産党軍が北京に入城した1948年に思高聖經学会は香港に移って翻訳も中国大陆から香港に移動しても行われ、翻訳は継続された。はじめ旧約聖書、のちに新約聖書注釈部分を除き改訂を加えて1968年に完成するに至っている¹¹⁾。カトリックの用語で翻訳されている。

20世紀中ごろに完成した『思高聖書』は18世紀の『古新聖經』より、もっと理解しやすい。そこで、『古新聖經』と『思高聖書』の関係について、聖書植物と宗教用語の中国訳語を中心として比較し、語彙と翻訳概念から考察をしてみる。

2.2 各章のタイトルについて

まずは『古新聖經』と『思高聖書』、及び底本のブルガタ訳聖書の各章の題名を比べてみる。

| 『古新聖經』 | 『思高聖書』 | ブルガタ訳聖書 | 日本語 |
|-----------|--------|------------|--------|
| 旧約聖書 | | | |
| 1. 化成之經 | 1. 創世紀 | 1. Genesis | 創世記 |
| 2. 造成經之總論 | | | |
| 3. 救出之經 | 2. 出谷紀 | 2. Exodus | 出エジプト記 |

8) *Records of the General Conference of the Protestant Missionaries of China held at Shanghai, May 7-20, 1890*, American Presbyterian Mission Press, pp531-549.

9) 沼野治郎『現代中国語訳の聖書——モリソン訳から改訂和合本聖書に至る翻訳史』（せせらぎ出版 2014年）p20。

10) 沼野（2014）p38。

11) George Kam Wah (2017), pp67-70.

| | | | |
|------------------------|-----------|--|-----------------|
| 4. 肋未子孫經 | 3. 肋未紀 | 3. Leviticus | レビ記 |
| 5. 數目經 | 4. 戶籍紀 | 4. Numeri | 民数記 |
| 6. 第二次傳法度經 | 5. 申命紀 | 5. Deuteronomium | 申命記 |
| 7. 若耶穌之經 | 6. 若蘇厄書 | 6. Iosue | ヨシユア記 |
| 8-1. 審事官經并序 | 7. 民長紀 | 7. Iudices | 士師記 |
| 8-2. 祿德經 | 8. 盧德傳 | 8. Ruth | ルツ記 |
| 9. 衆王經書并序 [: 眾王經. 卷一] | 9. 撒慕爾紀上 | 9. I Samuhelis (I Regum) | サムエル記上 |
| 10. 衆王經. 卷二 | 10. 撒慕爾紀下 | 10. II Samuhelis (II Regum) | サムエル記下 |
| 11. 衆王經. 卷三 | 11. 列王紀上 | 11. III Regum | 列王記上 |
| 12. 衆王經. 卷四 | 12. 列王紀下 | 12. IV Regum | 列王記下 |
| 13. 如達斯國衆王經尾増の總綱. 卷一 | 13. 編年紀上 | 13. I Paralipomenon | 歷代誌上 |
| 14. 如達斯國衆王經尾増の總綱. 卷二 | 14. 編年紀下 | 14. II Paralipomenon | 歷代誌下 |
| 15-1. 厄斯大拉經. 上下卷 | 15. 厄斯德拉上 | 15. Esdras (I Esdrae) | エズラ記 |
| 15-2. [厄斯大拉經. 下卷] | 16. 厄斯德拉下 | 16. Nehemias (II Esdrae) | ネヘミヤ記 |
| 16. 若伯經并序 | 22. 約伯傳 | 20. Iob | ヨブ記 |
| 17. 達味聖詠. 上卷 | 23. 聖詠集 | 21. Psalmi | 詩篇 |
| 18. 達味聖詠. 中卷 | | | |
| 19. 達味聖詠. 下卷 | | | |
| 20. 撒落滿之喻經 | 24. 箴言 | 22. Proverbia | 箴言 |
| 21-1. 智德之經 : 智慧篇 | 27. 智慧篇 | 25. Sapientia | コヘレトの言葉 |
| 21-2. 智德之經 : 訓道篇 | 25. 訓道篇 | 23. Ecclesiastes | コヘレトの言葉 |
| 22. 厄格肋西亞斯第箇 | 28. 德訓篇 | 26. Ecclesiasticus | エゼキエル書 |
| 23-1. 達尼耶爾經并序 | 34. 達尼爾 | 32. Daniel | ダニエル書 |
| 23-2. 約那斯經 | 39. 約納 | 37. Ionas | ヨナ書 |
| 24. 瑪加白衣經. 上卷 | 20. 瑪加伯上 | 45. I Machabaeorum | マラキ書 |
| 25. 瑪加白衣經. 下卷 | 21. 瑪加伯下 | 46. II Machabaeorum | マラキ書 |
| 新約聖書 | | | |
| 26. 聖徒瑪竇萬日畧 | 47. 瑪竇福音 | 47. Evangelium secundum Matthaeum | マタイによる福音書 |
| 27. 聖史瑪爾谷萬日畧 | 48. 馬爾谷福音 | 48. Evangelium secundum Marcum | マルコによる福音書 |
| 28. 聖史路加萬日畧 | 49. 路加福音 | 49. Evangelium secundum Lucam | ルカによる福音書 |
| 29. 聖若望聖經并序 | 50. 若望福音 | 50. Evangelium secundum Ioannem | ヨハネによる福音書 |
| 30. 諸徒行實經 | 51. 宗徒大事錄 | 51. Actus Apostolorum | 使徒行伝 |
| 31-1. 聖保祿論羅馬教友書札 | 52. 羅馬書 | 52. Epistola B. Pauli ad Romanos | ローマの信徒への手紙 |
| 31-2. 聖保祿論各林多教友書札. 第一札 | 53. 各林多前書 | 53. Epistola B. Pauli ad Corinthios I | コリントの信徒への手紙 (1) |
| 31-3. 聖保祿論各林多教友書札. 第二札 | 54. 各林多後書 | 54. Epistola B. Pauli ad Corinthios II | コリントの信徒への手紙 (2) |
| 32-1. 聖保祿書札 : 與加拉達亞札 | 55. 迦拉達書 | 55. Epistola B. Pauli ad Galatas | ガラテヤの信徒への手紙 |
| 32-2. 與厄斐所札 | 56. 厄弗所書 | 56. Epistola B. Pauli ad Ephesios | エフェソの信徒への手紙 |
| 32-3. 與斐理伯城人札 | 57. 斐理伯書 | 57. Epistola B. Pauli ad Philippenses | フィリピの信徒への手紙 |

19世紀の漢訳聖書と『古新聖經』について（余）

| | | | |
|--|------------|--|-----------------|
| 32-4. [與得撒落尼加札. 第一札] | 59. 得撒落尼前書 | 59. Epistola B. Pauli ad Thessalonicenses I | コロサイの信徒への手紙 |
| 32-5. 與各落梭城人札 | 58. 哥羅森書 | 58. Epistola B. Pauli ad Colossenses | テサロニケの信徒への手紙（1） |
| 32-6. 與得撒落尼加札. 第二札 | 60. 得撒落尼後書 | 60. Epistola B. Pauli ad Thessalonicenses II | テサロニケの信徒への手紙（2） |
| 33-1. 聖保祿與弟莫德阿及弟多及斐肋孟、 噯伯肋約斯、聖亞各伯、聖伯多祿、聖 如達書札 [：與弟莫德阿書. 第一札] | 61. 弟茂德前書 | 61. Epistola B. Pauli ad Timotheum I | テモテへの手紙（1） |
| 33-2. [與第莫德阿書. 第二札] | 62. 弟茂德後書 | 62. Epistola B. Pauli ad Timotheum II | テモテへの手紙（2） |
| 33-3. 與第多書 | 63. 第鐸書 | 63. Epistola B. Pauli ad Titum | テトスへの手紙 |
| 33-4. 聖保祿與斐肋孟寫的札 [經] | 64. 費肋孟書 | 64. Epistola B. Pauli ad Philemonem | フィレモンへの手紙 |
| 33-5. [聖亞各伯之札] | 66. 雅各伯書 | 66. Epistola catholica B. Iacobi | ヤコブの手紙 |
| 33-6. [聖伯多祿之札 [經]. 第一札] | 67. 伯多祿前書 | 67. Epistola I B. Petri | ペテロの手紙（1） |
| 33-7. [聖伯多祿之札. 第二札] | 68. 伯多祿後書 | 68. Epistola II B. Petri | ペテロの手紙（1） |
| 33-8. [聖如達之札] | 72. 猶達書 | 72. Epistola catholica B. Iudae | ユダの手紙 |
| 33-9. [噯伯肋約斯] | 65. 希伯來書 | 65. Epistola B. Pauli ad Hebraeos | ヘブライ人への手紙 |
| 34-1. [聖若望之札. 第一札] | 69. 若望一書 | 69. Epistola I B. Ioannis | ヨハネの手紙（1） |
| 34-2. [聖若望之札. 第二札] | 70. 若望二書 | 70. Epistola II B. Ioannis | ヨハネの手紙（2） |
| 34-3. [聖若望之札. 第三札] | 71. 若望三書 | 71. Epistola III B. Ioannis | ヨハネの手紙（3） |
| 34-4. 聖若望默照經 | 73. 若望默示錄 | 73. Apocalypsis B. Ioannis Apostoli | ヨハネの黙示録 |
| 35. 聖依撒意亞先知經 | 29. 依撒意亞 | 27. Isaias | イザヤ書 |
| 36-1. 多俾亞經 | 17. 多俾亞傳 | 17. Tobias | トビト記 |
| 36-2. 如弟得經 | 18. 友弟德傳 | 18. Iudith | ユディト記 |
| 36-3. 厄斯得肋經 | 19. 艾斯德爾傳 | 19. Esther | エステル記補遺 |
| 訳せず | 26. 雅歌 | 24. Canticum | 雅歌 |
| 訳せず | 30. 耶肋米亞 | 28. Ieremias | エレミヤの手紙 |
| 訳せず | 31. 耶肋米亞哀歌 | 29. Lamentationes | 哀歌 |
| 訳せず | 32. 巴路克 | 30. Baruch | バルク書 |
| 訳せず | 33. 厄則克耳 | 31. Ezechiel | エゼキエル書 |
| 訳せず | 35. 颯瑟亞 | 33. Osee | ホセア書 |
| 訳せず | 36. 岳厄爾 | 34. Ioel | ヨエル書 |
| 訳せず | 37. 亞毛斯 | 35. Amos | アモス書 |
| 訳せず | 38. 亞北底亞 | 36. Abdias | オバデヤの予言 |
| 訳せず | 40. 米該亞 | 38. Michaea | ミカエル |
| 訳せず | 41. 納鴻 | 39. Nahum | ナホム書 |
| 訳せず | 42. 哈巴谷 | 40. Habacuc | ビデオ |
| 訳せず | 43. 索福尼亞 | 41. Sophonias | ソフルニア |
| 訳せず | 44. 哈蓋 | 42. Aggaeus | ハガイ |
| 訳せず | 45. 匝加利亞 | 43. Zacharias | ザカリア |
| 訳せず | 46. 瑪加基亞 | 44. Malachias | マカキア |

上掲の表によれば、旧約聖書のレビ記、ヨシュア記、士師記、ルツ記、エズラ記、ネヘミヤ記、詩篇、

コヘレトの言葉、ダニエル書、ヨナ書、マラキ書のタイトルは同様である。新約聖書のほうはマタイによる福音書、マルコによる福音書、ルカによる福音書、ヨハネによる福音書、ローマの信徒への手紙、コリントの信徒への手紙（1）、コリントの信徒への手紙（2）、ガラテヤの信徒への手紙、エフェソの信徒への手紙、フィリピの信徒への手紙、コロサイの信徒への手紙、テサロニケの信徒への手紙（2）、テモテへの手紙（2）テトスへの手紙、フィレモンへの手紙、ヤコブの手紙、ペテロの手紙（1）、ペテロの手紙（2）、ヨハネの手紙（1）、ヨハネの手紙（2）、ヨハネの手紙（3）、ヨハネの黙示録、イザヤ書、トビト記、ユデイト記は同様である。

あわせて37章のタイトルは同様であり、56%の比率である。また、詩篇の内容から見ると、『古新聖經』と『思高聖書』は同じく150篇である。けれども、『古新聖經』の詩篇第9篇の内容と第10の内容を比べると、『古新聖經』の第9篇の最後のところで、丁度『思高聖書』の第10の部分に重ねている。それに、『思高聖書』の“第十篇（9）”の形で、“第10篇の内容は第9篇に当てている”を読者に注意することが分かる。ここの“第9篇”はすなわち『古新聖經』の第9篇の内容を指すことが読み取れる。

| 『古新聖經』の詩篇第9篇後半 | 『思高聖書』詩篇第10篇前半 |
|---|--|
| 主，我主！求尔臨、舉尔手， 勿忘弱者之屈難。強者爲何招動尔之義怒？ 因其心妄說：「世事，主皆不管。」但 尔皆見強者施虐、弱者受屈 | 上主，你爲什麼站在遠處！在困苦之時竟隱藏不 露？惡人蠻橫地難為弱小的人，叫他陷於預設 的陰謀之中。惡人因隨心所欲而自慶，匪徒因輕 慢上主而自幸； 惡人心高氣傲說：「他決不會追究！也決沒有天 主！」 他暗地裏要殺害無辜，他對不幸者窺伺 |

上掲の資料により、『古新聖經』の詩篇第9篇後半：

『主よ、なにゆえ遠く離れて、立たれるのですか。なにゆえ悩みの時に身を隠されるのですか。悪しき者は高ぶって貧しい者を激しく責めます。悪しき者は自分の心の願いを誇り、むさぼる者は主をのろい、かつ捨てる。悪しき者は誇り顔をして、神を求めない。その思いに、すべて「神はない」という。彼は村里の隠れ場におり、忍びやかな所で罪のない者を殺す』

の部分と同様である。

また、詩篇の第147篇まで、両者は同じ内容であっても、一つの篇を前後にずらしている。そして、『思高聖書』の第147篇のタイトル“聖詠集 第一四七篇（146, 147）”の形から、『思高聖書』の第147篇の内容は『古新聖經』の第146篇の内容も含めていることが分かる。

| 『古新聖經』の第146篇 | 『思高聖書』の第147篇 |
|--|--|
| <p>凡人宜讚主，此善工，因益人，且係主悅納的。主復興日露撒冷，要召聚散的依斯拉耶耳後代都會合。</p> <p>他療疾愈傷，知星數，逐一定名。即他——吾主——是大，其能巨，其知無限。</p> <p>主庇善者，抑惡者至地。宜齊彈而詠！即他佈雲，降雨下地；高山產草，坪川產菜。爲人用度，賞獸畜相宜之食，及號彼の烏鴉雛。不悅人恃騎之能，不愉人仗己腿之幹。但主樂敬畏者，賴其慈[者]。</p> | <p>亞肋路亞！讚美上主，因他是美善的，歌頌我主，因他是甘甜的，我主上主是應受讚美的！上主重建了耶路撒冷城，完聚了四散的以色列民。他醫治了心靈破碎的人，也親自包紮了他的傷痕。</p> <p>星辰的數目，全由上主制定，星辰的稱號，也都由他命名。</p> <p>我們的偉大上主，威能無比，他所具備的智慧不可估計。上主將謙遜的人扶起，將蠻橫的人貶抑於地。請歌唱謝恩詩稱頌上主，請彈琴詠讚我們的天主！他以雲霧遮蔽高天，他將雨露賜給農田；他使青草生於群山，他造植物供人吃穿。</p> <p>他將食物賜給家畜，他養育啼叫的鴉雛。馬的壯力，他不歡喜，人的快腿，他不中意，那敬畏上主的人，他纔歡喜，信賴他慈愛的人，他纔中意。</p> |

『古新聖經』の第146篇のはじめのところ：

あなた方はヤハを賛美せよ。

わたしたちの神に調べを奏でるのは良いことだからである。

それは快いことだからである - 賛美はふさわしい。

主はエルサレムを建てておられ、

イスラエルの追い散らされた者たちを集められる。

神は心の打ち砕かれた者をいやし、その痛む所を包んでくださる。

神は星の数を数えておられ、

そのすべてを名で呼ばれる。(後略)

内容から見ると、『思高聖書』の第 147 篇の内容と『古新聖經』の第 146 篇の内容は一致していることが分かる。

2.3 植物の訳語

(1) レンズマメ／レンズ豆

| | |
|--------------------|---|
| 『古新聖經』（造成經之總論第23篇） | 隨即拿麵頭連扁豆的盤了子，吃歛了就走，竟不顧賣了哥哥的等級權柄！ |
| 『思高聖書』創世記 25：29-34 | 雅各伯遂將餅和扁豆羹給了厄撒烏；他吃了，起身走了。一厄撒烏竟如此輕視了長子的名分。 |

(2) ニュウコウジュ／乳香

| | |
|------------------|--|
| 『古新聖經』聖徒瑪竇萬日啓第2篇 | 他們聽了王言起身，忽頭東見星在他們前行，到孩住處止。他們一見星，大喜，入室見孩同他母瑪利亞在一處。跪他前叩拜，開収寶的匣，獻禮物、黃金、乳香、沒藥。 |
|------------------|--|

| | |
|-------------------|---|
| 『思高聖書』瑪竇福音 2：9-11 | 他們一見到那星，極其高興歡喜。他們走進屋內，看見嬰兒和他的母親瑪利亞，遂俯伏朝拜了他，打開自己的寶匣，給他奉獻了禮物，即黃金、乳香和沒藥。 |
|-------------------|---|

(3) ムラサキゴジアオイ／沒藥 (2) の例文を参照

(4) ドクムギ／毒麦

| | |
|---------------------|--|
| 『古新聖經』聖徒瑪竇萬日畧13篇 | 天國就如人在己地撒好種。傭人正都睡，他仇來了，撒莠在他種的麥內後，去了。苗將及結穗，終顯出莠。傭去見家主說：『主，你撒的不是好種麼？爲何生出莠來呢？』答：『那是我执行的。』 |
| 『思高聖書』瑪竇福音 13：24-26 | 耶穌給他們另設了一個比喻說：「天國好像一個人，在自己田裏撒了好種子；但在人睡覺的時候，他的仇人來，在麥子中間撒莠子，就走了。苗長起來，抽出穗的時候，莠子也顯出來了。家主的僕人，就前來對他說：主人！你不是在你田地裏撒了好種子嗎？那麼從那裏來了莠子？」 |

(5) ザクロ／ざくろ

| | |
|-----------------|--|
| 『古新聖經』申命紀第8篇 | 你們主陡斯自然要領你們進好地方，那裡多有河、泉水，那裡的平地、高山、大江衝湧出來；這地方，真是產麥子、大麥、葡萄的地方，無花菓、石榴、阿里瓦樹這樣滿有，說得是油蜜的地方。你們在這個地方不短少甚麼，要吃你們的饅頭；喜歡甚麼，甚麼豐厚。 |
| 『思高聖書』申命紀 8：7-8 | 因為上主你的天主快要領你進入肥美的土地，那裏有溪流，有泉水，有深淵之水由谷中和山中流出；那地出產小麥、大麥、葡萄、無花果和石榴；那地出產橄欖、油和蜂蜜；在那地你決不缺糧吃，在那裏你將一無所缺 |

(6) 葡萄 (7) 麦 (8) イチジク (9) オリーブは (5) の例文に参照。

(10) コロシントウリ／メロン、

| | |
|------------------|---|
| 『古新聖經』數目經第11篇 | 誰給我們肉吃呢？我們記得在厄日多地方，平白吃魚、東瓜、甜瓜、『撥耳里』菜、葱、蒜。我們的身內都乾了，我們的瞧見的不過是『瑪那』。原來「瑪那」如芫薺子一樣，像稻德畧(略)的色。 |
| 『思高聖書』民數記 11：4-6 | 誰給我們肉吃？我們記得：在埃及我們可隨便吃魚，還有胡瓜、西瓜、萆菜、蔥和蒜。現在我們的心靈憔悴，我們眼見的除「瑪納」外，什麼也沒有。」「瑪納」形似胡荽種子，色彩有如珍珠。 |

(11) 葱 (12) ニンニクは (10) の例文を参照

(13) コリアンダー／コエンドロ

| | |
|-----------------|------------------------|
| 『古新聖經』救出之經第16篇 | 這個原來像芫荽的子粒，色白，味如麥麵蘸蜂蜜。 |
| 『思高聖書』出谷紀 16：31 | 它像胡荽的種子那樣白，滋味好似蜜餅。 |

(14) コヘンルーダ／芸香

| | |
|--------------------|--|
| 『古新聖經』 聖徒路加萬日畧第11篇 | 大禍與你，法里塞阿！爾等用心獻薄荷、臭草、諸菜等十分之一與堂，後不顧逆主之義 |
| 『思高聖書』 路加福音 11：42 | 禍哉，你們法利塞人！因為你們把薄荷、茴香及各種菜蔬捐獻十分之一，反而將公義及愛天主的義務忽略過去 |

(15) の薄荷は (14) に参照。

(16) クロミグワ／桑

| | |
|---------------------|--------------------------|
| 『古新聖經』 瑪加白衣經. 上卷第6篇 | 爲增戰象猛勇，使象看葡萄、桑菓（果）紅汁④。 |
| 『思高聖書』 瑪加伯上 6：34 | 有人在象前，放上葡萄汁和桑葚汁，引誘牠們上陣作戰 |

(17) キリストイバラ／茨

| | |
|---------------------|---|
| 『古新聖經』 聖徒瑪竇萬日畧27篇 | 總督的兵送耶穌到署，招衆兵來脫他衣，使他披一紅長衣；用荆棘辦作了王帽形，壓在他頭；放一葦在他手，跪他前，請他說：「請如德亞王安。」唾沫在臉，用那葦打他首。 |
| 『思高聖書』 瑪竇福音 7：27-31 | 那時，總督的兵士把耶穌帶到總督府內，召集了全隊圍着他，脫去了他的衣服，給他披上一件紫紅色的外氈；又用荆棘編了一個茨冠，戴在他頭上，拿一根蘆葦放在他右手裏；然後跪在他前，戲弄他說：「猶太人的君王，萬歲！」隨後向他吐唾沫，拿起蘆葦來敲他的頭。 |

(18) カシカヤツリ／パピルス、(17) の例文を参照。

(19) キダチタバコ／からし

| | |
|----------------------|---|
| 『古新聖經』 聖徒瑪竇萬日畧13篇 | 耶穌說：「天國似甚麼？我將他比何物？比如芥子，人種於園，芥子生長後成大樹，空中之鳥棲其枝。」 |
| 『思高聖書』 瑪竇福音 13：31-32 | 耶穌又說：「天主的國相似什麼？我要把它比作什麼呢？相似一粒芥子，人取來種在自己的園中，它遂生長起來，成了大樹，天上的飛鳥都棲息在它的枝頭上。」 |

2.4 宗教用語

例を見てみよう。

(1)

| | |
|-----------------------|---|
| 『古新聖經』 聖史瑪爾谷萬日畧15篇 | 從正午到申時，普天下大變黑暗。申初，耶穌大聲說：「厄羅依，厄羅依，郎瑪，撒巴克大尼？」 一解說：我主，我主，爲何棄我呢？ |
| 『思高聖書』 馬爾谷福音 15：33-37 | 到了第六時辰，遍地昏黑，直到第九時辰。在第九時辰，耶穌大聲呼號說：「厄羅依，厄羅依，肋瑪，撒巴黑塔尼？」意思是：「我的天主，我的天主，你為什麼捨棄了我？」 |

ここの「厄羅依，厄羅依，郎瑪，撒巴克大尼」は「新約聖書」に記されたイエス・キリスト処刑の場

面で、イエスが十字架上で絶命する直前に祈った「わが神、わが神、どうして私をお見棄てになったのか」という意味の言葉である。『思高聖書』は『古新聖經』と同じく「厄羅依」を使い、後ろの「郎瑪，撒巴克大尼」と「肋瑪，撒巴黑塔尼」は三文字の差だけである。

(2)

| | |
|----------------------|---|
| 『古新聖經』 聖史路加萬日畧第23篇 | 耶穌說：「我父，饒赦他們！他們不知我作的是甚麼。」為分耶穌的衣，拈鬮。 |
| 『思高聖書』 路加福音 23：44-46 | 耶穌說：「父啊！寬赦他們罷！因為他們不知道他們做的是什麼。」他們拈鬮分了他的衣服。 |

この「拈鬮」は「くじを引いて」の意味である。アレーニの『天主降生言行紀畧』第7巻も「くじを引いて」に言及したが、「探鬮」69の漢訳語を使った。そして、『神天聖書』は『古新聖經』、『思高聖書』同様で「拈鬮」の漢訳語をつかっている。

(『天主降生言行紀畧』第7巻)

耶穌既懸十字架上，兵卒將其衣四分。獨一長衣渾織無縫，不欲拆破，探鬮取之。

(『神天聖書』)

又既釘之十字架後即分分厥而拈鬮見每人取多少

聖書の中でくじを引くことが最初に言及されているのは、贖罪の日にエホバとアザゼルのためのやぎを選ぶことに関係した箇所である。(レビ 16：7-10)¹²⁾

『古新聖經』 後使那兩個公羶羊在天主台前、憑據殿門口站立抽籤

『思高聖書』 為這兩隻公山羊抽籤

『古新聖經』と『思高聖書』は共に「抽籤」を使用する。また、他の「くじを引くこと」の箇所をみてみよう。

12) 艾儒略「天主降生言行紀畧」第7巻第21. 鐘鳴旦：『耶穌會羅馬檔案館明清天主教文獻』（台北利氏學社，2002）Vol.

| | | |
|--------|---------------|--------------------------------|
| 『古新聖經』 | 聖史瑪爾谷萬日畧第15篇 | 釘他在十字架上，分開他的衣裳，拈鬮，好知誰得何分。 |
| | 達味聖詠. 上卷第21篇 | 分我衣——分我長衣，且拈鬮。 |
| 『思高聖書』 | 馬爾谷福音 15：24 | 他們就將他釘在十字架上，並把他的衣服分開，拈鬮，看誰得什麼。 |
| | 聖詠集 第二十二篇（21） | 他們瓜分了我的衣服，為我的長衣，他們拈鬮。 |

小結

19世紀から中国に来たプロテスタント宣教師であるモリソンが中国語による聖書全訳の嚆矢『神天聖書』を翻訳する際に参考にしたのが、カトリックであるポアロとバセの翻訳本であったことも重要な事実である。カトリックとプロテスタントはその布教活動に対する考え方の違いから、翻訳活動にはさほど関連性がみられないのではないかと、これは従来の見方であった。しかし、18世紀のイエズス会の漢訳聖書と区別して、モリソンは聖書あるいは宗教関連の出版物にある人名と固有名詞に使用された漢字の統一性を確立したいと考えていたことが読み取れる。とは言え、実際には翻訳や宗教関係の用語では両者異なる翻訳が続くことがうかがえる。また、『古新聖經』と『思高聖書』のタイトル、宗教用語、植物について、内容を分析していくと、両者の間に明らかに継続関係を読み取ることができる。

